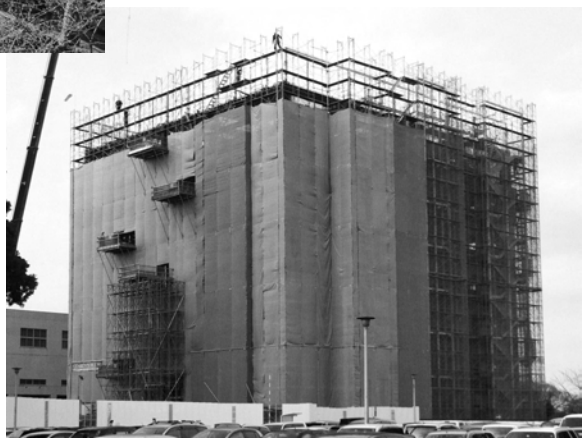
21
2011.5

# 薬友会報

千葉大学薬友会

西千葉キャンパス風景



亥鼻キャンパスの建設中の二期棟

東北地方太平洋沖を震源とする地震により甚大な被害を受けられた薬友会会員のみなさまに心からお見舞い申し上げます。また福島原子力発電所事故に伴い生活基盤が奪われてしまった会員のみなさまにもお見舞い申し上げます。

（千葉大学薬友会　会長　西田　篤司）

薬友会長・研究院長挨拶 …… 2
医学薬学府長就任挨拶 …… 3
千葉大学薬学部創立120周年記念事業ご支援のお願い … 4
進学振分け制度と平成22年度の振分け結果について … 5
６年制教育の進展－平成22年度薬学共用試験最新報告－ …… 5
研究室紹介 …… 6
クラス通信 …… 7
ゐのはな山岳会 …… 12
サークル紹介 …… 12
学部だより …… 13
受賞等 …… 13
博士学位授与一覧 …… 14
教員の異動 …… 15
薬友会より …… 15
薬友会会員名簿のＣＤ－ＲＯＭ化について … 16
薬友会の新規入会者減少と終身会員加入のお願い … 17
東北地方太平洋沖を震源とする地震への「義援金」のお願い …… 17
薬友会セミナー …… 18
編集後記 …… 18

## 薬友会長・研究院長挨拶

西田　篤司

また、新たな薬友会報をお届けできることを大変うれしく思っております。平成23年度はいよいよ６年制薬学科在籍学生が６年生となり、平成18年に始まった薬学６年制教育の締めくくりを学び、新たな薬剤師として社会に飛び立ちます。超氷河期の中の就職活動や新しい国家試験の受験など、先輩の経験を参考にできない手探りの中で自分の道を開いていかなければなりません。新しい教育を受けた薬剤師として医療現場や社会からの期待も大きい反面、学生にはその期待に応えられるか大きなプレッシャーもかかっています。一方４年制薬科学科卒業生も修士課程を経て就職・進学の岐路に立たされています。社会の動静に大きく影響を受け、就職活動の結果に一気一憂している姿は周りで見ているものもつらくなります。しかしいずれの学科で学ぼうとも、千葉大学薬学部・薬学研究院で身につけた知識・技能はどのような場面においても支えとなることを信じ、能力を発揮できる場を見つけ活躍していただきたいと思います。薬友会メンバーの皆様方におかれましては、本学卒業生の旅立ちを支えていただければ大変ありがたく思います。ほんの少しの追い風が彼らの巣立ちに大きな勇気を与えることと思います。

薬学研究院では平成22年度の修士課程の改組に続き平成24年度の博士課程改組に向けて準備中です。創薬研究者の養成を目指す後期３年博士課程と臨床研究者の養成を主眼とし、医学部との共同で運営する４年博士課程を設置する予定です。研究の高度化・国際化に対応できる人材の育成を目指します。

薬学部創立120周年事業の一環として記念式典、祝賀会の準備も佳境に入って参りました。記念講演会には2010年ノーベル化学賞を受賞された鈴木章北海道大学名誉教授にご講演いただけることになりました。社会を支える化学の発展に向けて先生のお考えを拝聴できるものと思います。120周年記念事業の実施に向けて多くの薬友会員からご寄付をいただいており、厚く御礼申し上げます。さらなるご支援をお願いいたしたいと思います。

薬学部新研究棟の建築も順調に進み、すでに外壁が完成しております。新たな薬学研究の拠点として１期棟とあわせて活用したいと思っております。千葉大薬学部にとっては２回目の大移転事業です。前回の経験もしっかり生かしてトラブルなく済ませ、一刻も早く亥鼻地区にて研究・教育を開始したいと思っております。

さて平成22年度も終わりに近づき、卒業・終了式、謝恩会などの行事や後期試験の準備が進められていた矢先、３月11日午後、東北関東大震災が発生しました。未曾有の大地震、大津波、さらに原子力発電所の事故、どれをとっても私どもの経験を超える大災害が立て続けに起こりました。会員の皆様にもご心配をおかけしております。また、被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。幸い老朽化している薬学部西千葉キャンパスも大きな障害を生じず、また人的な被害も報告されておりませんが継続して調査を行っているところです。その後も、西千葉地区の計画停電や交通障害、ガソリン不足による運輸障害など予想もしなかったトラブルに見舞われておりますが教職員さらに学生・大学院生一丸となって乗り越えていく所存です。会員の皆様にご不便をおかけすることもあろうかと思いますが、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。（残念ながら新研究棟建設工事は震災後の資材不足のためにストップしており、完成時期の目処が立たない状況になりました。東北地方の惨状と困難な復興を思えばやむを得ません。）

## 医学薬学府長就任挨拶

山本　友子

平成23年４月より、大学院医学薬学府長を務めることとなりました。

丁度10年前、今世紀の始まりと共に本学薬学部は大学院大学に生まれ変わり、薬学研究院が発足しました。これに伴い、それまでの大学院教育組織の薬学研究科と医学研究科が統合する形で医学薬学府となりました。現在、修士課程２専攻（在学生168名）、後期３年博士課程１専攻（在学生50名）、４年博士課程３専攻（在学生481名）を擁し、最先端の生命科学・創薬科学分野および高度な医療科学分野での研究・教育活動を推進して薬学・医学の未来を担う人材育成にあたっております。

本年度は薬学新制度６年制課程の初めての卒業生を送り出すことになります。これに合わせて学府では博士課程の改組に取り組んでおりますが、従前にも増して生命科学の研究を担う創造的な研究者育成、創薬研究を目指す人材の養成、医療の高度化に対応できる研究マインドをもった専門職医療人の育成に力を注いでいく所存です。

近年のグローバリゼーションの潮流は、人々の活動を国や洋の東西を超えた規模で考える必要を強く意識させ、大学院教育の規範をも大きく変化させていますが、学府では国際的な環境でリーダーシップを発揮できる有能な人材の育成にも力を注いでおります。例を挙げますと、英語での講義（国際創薬学特論等）、セミナー、研究発表や１－２年にわたる米国大学等への海外学術研修、大学院生exchange programによる短期海外研修等を推奨しています。又海外からの優秀な人材を受け入れ、身近に日常的な国際的教育環境を構築しています。

本年夏には、薬学部亥鼻校舎２期棟（仮称）が完成し、念願の薬学部完全移転を果たすことができます。医学薬学府は亥鼻の地で、薬学と医学が名実ともに一体となって研究と教育の使命を果たすことが可能となります。引き続き会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 千葉大学薬学部創立120周年記念事業ご支援のお願い

千葉大学薬学部創立120周年記念事業会
幹事長　上野　光一

東日本大震災は未曽有の大惨事となりました。被災された方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。会員各位におかれましては、ご無事だったでしょうか。御案じ申し上げます。

さて、新棟新築工事ですが、この震災の影響で竣工時期が大幅に遅れる見通しとなりました。しかしながら、どのような状況にあっても、大学が教育研究活動を継続することが、日本を元気づけることにつながると考えており、千葉大学薬学部では本年の７月16日（土）に予定通り創立120周年記念講演会並びに祝賀会を挙行することにいたしました。その詳細案につきまして、以下にお知らせ申し上げます。

**記念講演会・祝賀会プログラム：平成23年７月16日（土）**

記念講演会

時　間　　午後２時00分～３時30分
場　所　　千葉大学けやき会館大ホール（千葉市弥生町１-33）
　　（総武線「西千葉駅」または京成電鉄「みどり台駅」下車）
講　師　　鈴木　章　北海道大学名誉教授（ノーベル化学賞受賞者）
演　題　　「Cross-coupling Reactions of Organoboron Compounds:
　　"Carbon-carbon Bonding Made Easy"」
参加費　　無料

記念祝賀会

時　間　　午後４時30分～６時30分
場　所　　京成ホテルミラマーレ宴会場（千葉市中央区本千葉町15番１号）
　　（総武線「千葉駅」または京成電鉄「千葉中央駅」下車）
　　電　話　043-222-2111
会　費　　15,000円（当日会場受付で頂きます）

千葉大学薬学部創立120周年記念事業に御賛同頂き御寄附を賜りました皆様方には改めて記念講演会並びに記念祝賀会開催の案内状を送付させて頂きます。また、高額の御寄附を頂戴いたしました方々には、記念祝賀会も含めまして御招待させて頂きます。

厳しい経済環境のなか、御寄附を賜りました同窓生の皆様方には心より厚く御礼申し上げます。記念講堂整備には薬学部創立120周年記念事業に相応しい内装設備とすることとしていますが、費用は全て寄附金によりまかなわれます。このため、記念講堂の利用機会の多い現職教職員には応分の負担をお願いし、ほぼ全員から力強いご支援を戴いています。また、多くの同窓会会員諸氏からも温かいご支援を頂戴いたしております。しかしながら、現時点では５千万円に設定しています寄附目標金額の達成まであと一歩のところで足踏みをしています。千葉大学薬学部同窓生の、特に若い方々のご協力を持ってすれば、達成できない目標金額ではないと確信しています。各卒業年度別の御寄附人数を別紙にまとめましたので、ご一読いただければ有り難く存じます。まだ御寄附をされていらっしゃらない同窓の皆様には、記念講演会・記念祝賀会に出席できるこの機会に、御寄附賜りますよう再度お願い申し上げます。

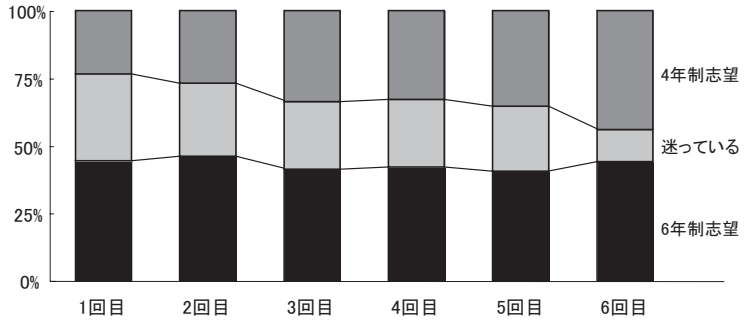
御寄附は個人・法人とも免税処置で取り扱えることとなっております。諸事出費多端の折誠に恐縮に存じますが、同窓生の皆様方におかれましても何卒この記念事業の趣旨をご理解頂き、青春のひと時を全力で駆け抜けた思い出の母校の新たなる前進に絶大なるご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

（薬学部120周年記念事業HP　http://www.p.chiba-u.ac.jp/120/index.html）

## 進学振分け制度と平成22年度の振分け結果について

千葉大学薬学部は平成18年度より、薬学科（６年制）と薬科学科（４年制）の２学科に改組されています。入学時点では学科配属を決めず、１、２年次の間に両学科の特徴を理解してもらい、３年次進級時に配属を決める進学振分け制度を採用しています。進学振分けは学生の志望に従いますが、著しい偏りがある場合には成績を参考にすることがあります。また、進学振分けに先立ち、年３回の志望調査を行っています。これらの結果は、志望学科を決める参考資料として毎回学生に開示します。

平成22年入学者では、１年次終了時に薬学科への志望者が半数を超えました。本年３月に進学振分けをした平成21年入学者をみると、入学直後では薬学科志望の学生がやや多く、最終的に薬学科40名、薬科学科35名となりました。図に示すように、最終志望届の提出までに実施した総計６回の志望調査結果から、２年間をかけて慎重に進路を選択してきた様子がうかがえます。学生は「薬学への招待」と「チーム治療」の講義を受講することで、薬剤師としての将来設計を考えてきました。また、２年次の夏には、薬剤師以外の職業についての理解を深めるため、卒業生等にご協力をいただき、製薬会社の研究職および開発職に就職した卒業生５名、大学教員１名、現役の博士・修士課程在学生３名による「進路選択相談会」を開催しました。土曜日の午後の時間を割いてくださいました卒業生の皆様に感謝いたします。学生は、こうして入学前には知りえなかった情報と経験から、自らの意志で進路を決めることができました。




平成21年度入学者の志望推移

小林カオル、高屋　明子＊（平成21，22＊年度入学者担当顧問）

## ６年制教育の進展－平成22年度薬学共用試験最新報告－

薬学科の学生は5年次に薬局と病院で合計22週間の「実務実習」を行います。実務実習では学生が実践的能力を修得するため、見学型実習ではなく参加型実習を行います。「薬学共用試験」とは参加型実習を行う薬学生に必要な知識、技能および態度を確認する試験で、主として知識を評価するCBT(Computer-based Testing)と主として技能と態度を評価するOSCE(Objective Structured Clinical Examination)の２種類があり、両方合格しないと実務実習ができません。

昨年度スタートした薬学共用試験も２年目を迎え、本学では平成22年12月５日にOSCE本試験が、平成23年１月７日にCBT本試験が行われました。教員は昨年経験済みですが、学生は初めての経験のため、参考書を買い模擬試験を受け、中にはOSCEが終了してから約１か月間ずっとCBTの勉強をしていた学生もいたようです。ともあれ、今年度は薬学科４年次学生42名全員が本試験に合格しました。

実務実習では、千葉大学の先輩のおられる施設にお世話になる学生もいました。昨年に引き続き先輩方のご指導をよろしくお願いいたします。

（関根　祐子）

# 研　究　室　紹　介

## 実務薬学

実務薬学研究室は、薬学部６年制教育に伴う臨床薬学教育を担う研究室の一つとして平成20年に新設された薬学部で最も新しい研究室です。平成22年度の構成員は、関根祐子（教授）、増田和司（助教）、薬学科の５年生２名・４年生１名の総計５名と、小さな研究室です。

薬剤師の業務は、調剤から処方設計、患者さんとの関わり、管理業務と多岐にわたっています。これらの業務を抱えながら薬剤師が医療チームの中で職能を発揮するには、薬剤師が科学者として薬物治療に関わるエビデンス(証拠)を示した薬物治療が不可欠です。臨床現場にはエビデンスが明確でないまま行われていることがまだ多くあります。例えば、薬物治療における薬剤選択、薬剤使用、副作用に関する対処など薬物治療に直結する内容のほか、従来薬剤師が行ってきた調剤、製剤などの薬剤業務でもエビデンスが確立しているとは限りません。そこで、実務薬学研究室では、「実務」という名の通り、薬剤師が業務を行う中で発生する様々な問題を患者さんの視点から抽出して、根拠に基づく解決法を探る研究をしています。現在は、リウマチ手術時の抗リウマチ薬使用法や緑内障治療薬の製剤間での効果比較などを行っています。今後は、薬剤業務に関する問題についても研究展開する予定です。

（関根　祐子）

## 生化学

生化学研究室では、1996年に小林弘教授が廣瀬教授の後を引き継いで以来15年がたちました。現在の研究室は、齋藤浩美講師、深町利彦助教を会わせた３名のスタッフ、大学院生４名(博士課程３名、修士課程１名)と学部学生12名(すべて薬学科)で構成されています。

当研究室では1996年以来、微生物と動物細胞を使って環境のpH変化に対する生物の適応機構について研究をしてきました。微生物は広範囲のpH環境で生息しており、pH変化に対する高い適応能力を持っています。経口感染する病原微生物は、胃の中での強酸性に耐えることができます。この機構を明らかにすることは、微生物の生態を明らかにするばかりでなく、感染予防にも役立つと考えられます。大腸菌を使って細菌の耐酸性機構について解析を進めてきた結果、細菌は強酸性環境下で生息するために様々な機構を駆使していることがわかりましたが、全容の解明にはもう少し時間がかかると思われます。

一方、ヒトなどの哺乳動物の体内はpH7.4付近の狭い範囲に保たれていますが、がん病巣、炎症部位、梗塞部位ではpHが低下し酸性になります。このような酸性部位での細胞の機能についてはほとんど研究されていませんでしたが、ここ５年ほどで、酸性環境下では新たなシステムが働いていることがわかってきました。酸性環境下で増殖するがん細胞ではこのようなシステムが機能していると予想され、その特異的阻害剤は抗がん剤の有力候補となります。また、このシステムを促進する薬剤は、炎症・梗塞の治癒に貢献するはずです。現在このような薬剤を見いだす新しいスクリーニング法の開発も行っています。

このような独自の視点に基づいた研究を通じて、独創性を持ち、未知への挑戦を厭わない学生が育ってくれることを願っています。

（小林　弘）

# クラス通信

## 昭和15年卒業（二六会）

同級生の多くは、お孫さんに恵まれ、結婚されておられると思う。小生も人なみに、孫娘が昨秋結婚し感無量である。

孫娘婚成り錦秋澄みわたり
秋冠婚親族包むミサの曲
アーメンの一語身にしむ婚儀かな

ところで、創立120周年事業が始まるが、諸兄と共に、それを楽しみにもう少し頑張ろう、よろしく！

〔訃報〕横田　修君が昨年12月20日に永眠された連絡を、本年初大師の日に受けた。一瞬わが眼を疑った。心から御冥福を祈る。　（石丸　正美）

## 昭和16年12月卒業（宣葉会）

今年は薬学部創立120年になります。逆算すると私どもが千葉の亥鼻が丘に在学した頃は、創立50周年の頃となります。50名の同級生と３年間共に学び、共に苦楽を体験したわけです。現在、この中で９名健在です。みんな、90歳前後になりますが、卒業以来57回のクラス会を開いている関係で、その消息は大体つかんでいます。長野県の巣山、田中の２人、千葉県の国友、古山の２人、横浜市の君塚、林一雄の２人、埼玉県の西口、海東の２人、それに東京の安田を加えて９名です。国友と安田は、日本橋倶楽部と言う地域性の親睦団体の会員なので比較的よく連絡をとっています。昨年は、千葉市のロータリークラブの会合で、国友君のおかげでスピーチの機会に恵まれ、古山君と３人でクラス会を持ちました。クラスメートはいくつになっても有難い存在です。今は、電話をかけると驚くほどすぐに連絡がとれます。どうか皆さん、お元気で連絡をとり合って下さい。ご家族を含めて、クラスメートの皆さん、いつまでも頑張って下さい。　（安田　英夫）

## 昭和20年卒業（るつぼ会）

平成22年のるつぼ会は幹事の都合により開かれませんでした。そこでこの年度中に訃報を受けた人は無かったので、物故者は33名、消息不明者４名を除くと、現存者は22名（22年卒１名飯塚俊彦君）となります。

今年は是非開催したいと思い、アンケート調査も用意して準備するつもりです。しかし会合出来るのは10名前後でしょう。そこで今後の会の運営方針について相談しようと思います。大変消極的ですがいたしかたありません。来年度はもっと精しい報告が出来ると思います。

国内世界の動向も前進後退を繰り返していて大変気にかかります。個人は非力でも、空襲終戦を経験した千葉の住民であった我々は、常に世界の平和を目指して行きたいと思います。　（西川　文雄）

## 昭和22年卒業（臥豚会）

平成21年９月に吉田淳源君が逝去の旨が確認され、22年卒業の同級生55名のうち物故者は34名、消息不明は４名、確認された現存者は17名です。

平成22年12月、この17名につき、健康状態の調査を従前同様に行い、全員から回答を得た。その結果は次の通りです。

1）介護施設に入所者、２名。
2）定期的に通院中で、かつリハビリ・介護を受けている者、４名。
3）定期的に通院中であるが、日常生活は概ね通常の者、９名。
4）日常は診療を受けることなく健康で、元気な者、２名。

なお、薬学部創立120周年記念誌の寄稿の依頼文に「120周年の歴史を刻み未来の架け橋となるよう」と記してある。この趣旨に添い私達学年の寄稿文は纏めたいと考えた。その理由は、私達は昭和19年４月に入学し、22年３月卒業まで、戦中・戦後の激動の時代、主に休日に軍関係の勤労動員があったにせよ、３年間の学生生活の殆どを亥鼻校舎にて、当時では恵まれた授業を受けたゆえ、その貴重な体験につき、できるだけ正確に次世代に伝えたいと思考したからである。

先ず、薬学部の事務室に問い合わせた所、私達学年に関する記録・資料は皆無とのこと。そこで、昨年４月、私達の学生時代の授業と勤労動員等につき、事実関係を検証するため、100問のアンケート調査を実施した。この調査結果と卒業アルバムなどを基に、記念誌の寄稿文を作成した。寄稿文は文字数の関係上、要点だけなので、同級生の要望もあり、詳細な“戦中・戦後の学生生活”の小冊子を作成し、戦後65周年の昨年８月、同級生の全員に配送した。　（中島　良郎）

## 昭和23年卒業

『お互いに元気な内に会いましょう』を合言葉に、平成22年恒例のクラス会は５月22日、新橋『新橋亭』で開催。当初出席予定の大塚君が急病、長谷川君が急用にて欠席となったが、新潟から長沢、高橋君、静岡から古橋君が参加され、12名の出席を得て楽しく３時間近く歓談した。その間創立120周年の計画、第二期工事の進捗状況等も説明し、寄付もお願いした。

クラス会欠席の返信が有った16名の内訳は死亡２、病気治療と体調不良が10、所用他が４で圧倒的に病欠が多く、一人で外出出来ない者も増えてきた。又千葉薬では異色の政治家となり、新自由クラブから国会議員として活躍した伊藤昌弘君が認知症で欠席との家人からご連絡があり･･･あの元気な男がと驚愕した。『訃報』19年間パーキンソン病と闘ってきた緑川敏郎君が21.5に肺炎で逝去、又千葉市内で開局していた島田信夫君が21.10.16日に急逝された。心からご冥福を祈り

ます。今年のクラス会は千葉とのご意見も有りますが、皆さんの足の便を考えると東京になりますね。奮ってご出席ください。『出席者氏名』前列左から小沢、古橋、古川、清水、長沢、後列左から三浦、高橋、植草、青柳（高）、小林（剛）、山下、井上は遅れて出席の為写らず。（三浦　清）

## 昭和25年卒業

阿出川、高橋、森下、安田君たちは、かねがね外出不如意ではあるものの、養生よろしく、例年になく寒かったこの冬を無事乗り切っているという嬉しい便りがあった。

その一方、宮坂芳樹君が23年２月に亡くなった。哀惜の念に耐えない。宮坂君は亥鼻で「臥豚」を住処とした一人である。三共で大活躍の後、カネボウ薬品に移り、退職後は調剤薬局を開設。多忙な中を亥鼻会（日本橋本町で開催）にも時折顔を出していた。彼は油絵もよくした。通夜には宮原（三共同僚）、松本宏、松本皎、勝又（いずれも「臥豚」同居）のほか親しかった角屋、石井、鈴木らが参列、ご冥福を祈った。

かくて、我々の期もいまやついに物故者（17）＞生存者（電話で連絡がとれるもの）（16）となってしまった。今後はお互い一層健康に留意し、次期クラス会（現在時期未定）では元気で再会、交歓できるよう念じて已まない。（鈴木昭治郎）

## 昭和29年卒業

平成22年は山崎幹夫君が春、村松敏夫君が秋の叙勲で、それぞれ瑞宝中綬章を受章されました。

クラス会は、10月22日丸ビル内の「福臨門」で開催しました。出席者は、（写真後列左から）光岡、早川、山崎、渡邉（民也）、道廣、今野、（前列左から）那須、比留間（知子）、渡邉（ともみ）の９名が楽しく懇談しました。山崎君は新潟での６年間の務めを終え東京の生活に戻ったとの事でした。クラス会に寄せられた近況報告では、御病床にいらっしゃる方も何名かおり、少しでも快方に向かわれる事をお祈りいたします。

平成21年12月末、佐藤稔君、吉積基之君のお二人が、平成23年２月25日には、千代裕彦君が、鬼籍に入られました。合掌。（比留間和夫）

## 昭和32年卒業

卒業年次に因んで毎年３月２日に、東京有楽町のレストランでクラス会を持っている。例年20名前後の出席者があったが、昨年は12名（男性のみ）、今年は18名（内、女性２名）であった。

昨年、出席者が少なかったのは、格別寒い日であったこともあるが、やはり本人や家族の病気が主な理由の様だ。

数え年で今年は全員が喜寿を迎えた訳で体力の衰えは如何ともしがたい。後で知ったのだが、昨年のクラス会の日の早朝に、国松季彦さんが亡くなられた。重篤な病を押して何回かこのクラス会に出席されていただけに、極めて象徴的な旅立ちであった。心よりご冥福をお祈り致します。

このクラス会の他に、隔年に１泊の小旅行をしている。今年は10月中旬に箱根を予定しているので、一人でも多くの参加が望まれる。（片岡　久男）

## 昭和33年卒業

昭和33年卒クラス会は平成22年５月16日（日）13時から銀座・三笠会館６Ｆ宴会場で行われました。

私達の学年はインドネシア留学生（故人）を含め44名ですが、現在41名が健在です。当日、医学部進学の伯野中彦さん、久田堯夫さんを含めて32名が出席しました。光陰矢の如しと申しますが、卒業して満52年ですのに「お前は少しも変わらないなあ」の会話があちこちで交わされて爆笑の連続でした。２次会のニュートーキョーにも28名が参加して、新緑のポプラ並木に銀ぶらも楽しみながら、飲みかつ大いに歓談しました。いつまでも名残り尽きないクラス会でした。なお、本年は７月には薬学部創立120周年の記念行事が行われますので、懐かしい千葉でクラス会を予定しています。120周年記念募金等の経過も報告されました。平成23年度のクラス会の代表幹事は満場一致で渡辺　楷さんに決まりました。（赤羽　康弘）

## 昭和34年卒（亥鼻三四会）

亥鼻の山に参集した昔の若人も、この春で56年を経過し、未だその知識を生かして仕事に励んでいる人もいますが、大半はセカンドライフに突入しています。そして総勢は31名（内女性６名）になりました。まさに、光陰矢の如しです。

クラス会は毎年秋一泊前後で開かれてきました。今回は一泊で昨年10月21，22日に行われました。参集したのは21名（内女性６名）です。場所は地元の東京です。遠く神戸、大阪、福島からも駆けつけてくれました。東京駅動輪の広場に集合し、江戸城（皇居東御苑）、靖国神社遊就館を経て、品川のホテルにて会食、懇親

を行いました。お互い、それぞれの人生の知識、経験を語り合い、またそれぞれに得るところ多なりと思いました。話はなかなか尽きず、深夜11時頃迄に及びました。翌日は、泉岳寺、庭園美術館、自然教育園を巡り、八芳園にて昼食後散会しました。友に囲まれながらの歴史と自然を感じる二日間でした。　（伊藤義人）

## 昭和35年卒業（珊瑚会）

卒業50周年を迎え、塩野谷、吉沢両幹事の企画で昨年５月12～13日熱海の沖、初島のリゾートホテル「エクシブ初島」で一泊のクラス会を開催、11名参加。12日熱海駅に集合、熱海港から連絡船で初島へ、迎えのバスでホテルに着いて休憩後、初島灯台、江戸城石切り場、林芙美子記念碑、源実朝歌碑など見物しながら島内を周遊。ホテルで地元のお魚料理を囲んでクラス会、近況報告、薬学部120周年記念の話題で盛り上がった。会終了後さらに有志が一室に集合、時間を忘れて歓談した。翌日は朝食を済ませ、連絡船で熱海港へ。ここで箱根観光と熱海市内観光の２組に分かれて解散。箱根組は芦ノ湖の遊覧船で新緑一杯の箱根を楽しんだ。意外にも中国語が飛び交い、温泉に漬けて黒くなった温泉卵を黒人が声を張り上げて売り子をしていた。箱根も変わったなー！それが印象的だった。熱海観光組は「お宮の松」をバスから眺め「熱海の海岸散歩する…」を秘かに口ずさんで熱海駅へ。駅から歩いて「池田万寿夫・佐藤陽子創作の家」を訪問、池田万寿夫さんの「エーゲ海に捧ぐ」の直筆原稿、バイオリニスト佐藤陽子さんのステージ衣裳、楽譜などを観賞。
仏像彫刻など趣味の世界、旅行、薬剤師としての仕事、薬友会のゴルフ・山行きに積極的に参加など、全員体調万全とは行かないが、H22年度は皆大過なく過ごす事が出来ました。　（秦　初博）

## 昭和36年卒業（三六会）

平成二十二年度　三六会のクラス会は、五月瀬戸内ど真ん中旅行です。みかんの花咲く郷、クラスのまとめ役、村上氏の生家のある因島とその周辺めぐり。一行は十四名。中には卒業以来初参加の人もいて、東京からは遠路だったが、二泊三日、懐かしく、元気で無事に楽しんだ。

一日目　東京～福山、そこからバスでしまなみ海道。尾道大橋、因島大橋を渡る。因島田熊町、百年前に建築と言う生家を見、見事な松の枝振りに驚く。白いみかんの花の間を散策。島の公園に上って海に浮かぶ島々、フェリーや、高速船の出入り、いつもと違う景観に感激！

二日目　土生港から、「瀬戸の花嫁」の歌を思い出しながら今治そして松山。「坊ちゃん」、松山城、「坂の上の雲」、に浸る。

三日目　雨の中をバスで来島大橋を渡り、大島、伯方島経由で大三島。大山祇神社で鎧、兜、刀などの国宝や重要文化財、生口島で平山郁夫美術館を見学。福山で解散。

社会生活を離れて有意義な三日間でした。

（中島久美子）

## 昭和37年卒業

2010年６月20日（日）、有楽町駅そばのニュートーキョーでクラス会が開かれた。

出席者は17名。急逝された池田守男氏の奥様も来られ、井坂・佐藤幹事の司会で近況などに話の花が咲いた。

同級生はみな70才を超え、男性の近況話のほとんどが闘病経験であったのに対し、女性は元気そのもの、「女子力」（こんな使い方はない？）のすごさを見せつけられた。

久しぶり登場の井上先生（帝京大薬学部長）は、「薬学部６年制」への転換で忙しい忙しいと云いながら、薬学部に起こっている変革の現況を話された。

（斉藤　光高）

## 昭和38年卒業（三葉会）

昨年のクラス会は５月下旬、新緑の箱根で開催しました。生憎富士山は拝めませんでしたが強羅公園やポーラ美術館、湿生花園、「山のホテル」のツツジなど鑑賞しながらの心地よい二日間でした。箱根は卒業二十周年記念にと最初に地方で開催した場所で二十数名の出席だったと記憶しています。その後時折の開催を経てここ十年間は毎年クラス会を開催するようになりました。残念ながらこの間に７名の級友が逝去されたり全員が「高齢者」になった事もあり出席者も減少してきました。特に男性陣が少なくなり昨年は出席17名の内、男性は３名でした。生涯現役とか体調の問題とか色々事情は有るとは思いますがお互いにもう少しガンバってみませんか。再来年には卒業五十周年を迎えますのでその時には出来るだけ多くの方が出席できるような記念のクラス会などどうかと思っています。何かプランなど有りましたら是非お寄せ下さい。又、卒業二十周年記念号以降休刊中だった会誌「あまるがむ」の卒業五十周年記念号の刊行も計画されていますので、その際には寄稿などのご協力をお願いします。

（鷲見　常夫）

## 昭和39年卒業

平成21年10月17日、立沢さん、鈴木さんが幹事となって、銀座アスターに12名が集まりました。私は、久しぶりに参加させて頂きましたが、卒業後57年を経ていると、あの学生の頃はあんなに可愛かった人が、こんなになっているんだ・・と、自分はこんな爺サンになっていることを棚に上げてしみじみ感じた次第です。この写真を見て、どれが誰だかわかりますか？
10月は学会やその関連の行事が重なる時期のようで、いつも参加していた人たちが欠席していたのは残念でしたが、沖縄県（旧姓 島袋さん）や愛知県（大原さん、旧姓 早福さん、旧姓 酒井さん）からも参加され、楽しい一時を過ごすことができました。もう、古稀を迎える人が殆どですから、この１年１年は大切です。今年（平成23年）は、是非ともクラス会を開きたいと思います。できたら、日本各地に散らばっている方たち、何とか都合をつけて集まりませんか？　今回の幹事は佐藤敏子さんと山口が務めさせて頂きます。

（山口幸男記）

## 昭和40年卒業（峠の会）

平成22年度のクラス会は、11月４日（土）“緑あふれる森のレストラン「日比谷松本楼」”で開催されました。当日は小春日和の晴天でクラス会を忘れて日比谷公園をのんびり散歩したい心境でした。幹事さん［池田（紀）・五月女両氏］ごめんなさい！

今回の出席者は13名（女性９、男性４）で、久しぶりに赤司氏（東京都）と元橋（瑛）氏（三重県）が、今回も沖縄県から普天間氏が参加してくれました。出席予定だったのに急用のため欠席を余儀なくされた竹山氏と吹野氏には、次回の出席を期待しましょう。

仏蘭西料理を楽しみながら皆さんの近況を拝聴。その後アトラクションとして作詞赤司氏、作曲普天間氏の「卒業」を斎田氏のオカリナと池田（紀）氏のハーモニカの伴奏で五月女氏と普天間氏が斉唱してくれました。出演者の多才ぶりに一同ビックリ！引き続き皆で“歌声喫茶”よろしく「ふるさと」、「もみじ」、「まっかな秋」、「大きな古時計」、「野ばら」を大声で歌いました。

次回幹事に鎌滝氏と平野が選出され、本年秋に開催することを確認して散会しました。　（平野　武明）

## 昭和41年度卒業（66会）

本年半ばに薬学部の新学舎が亥鼻の丘に移転とのこと。昭41年度卒の私達には思いで深い場所です。桜並木の連絡路の中で入学しそして旧学舎での最後の卒業生、加えて卒後45年の記念の年です。旧学舎跡地に大学病院が建った時には再び亥鼻の地に戻れるなど夢にも思わず、千葉大薬学部が歴史ある旧地に戻ったことは、昨年の「はやぶさ」の帰還を彷彿させるものでした。更に幾多の後輩が大学に残られ、最先端の研究と教育に活躍されていることは喜ばしい限りです。そんなこともあり、本年度のクラス会幹事は新校舎の訪問見学を企画中とのこと、今から楽しみ！！

昨年は新緑の軽井沢でクラス会を実施、17名が参加、関東在住では約60%の参加率でまぁまぁの成功か？
皆、年相応の日々の暮し振りで人生を楽しんでおります。唯、年と共に、健康への不安と関心が一段と高まってきた私達です。　（深草　佑一）

## 昭和47年卒業

３年ぶりのクラス会を“豪華客船”シンフォニーモデルナ号で開催し、22名が出席しました。私達にとって60歳定年の節目の年でもあり、新たな人生の船出への思いをそれぞれの心に秘め、「気持は」学生時代と少しも変わらぬ我等を乗せた船は、平成22年11月６日11時50分、「日の出ふ頭」を出航。幸運にも暖かな晴天に恵まれ、東京ベイサイドを一望しながらのランチクルーズを堪能しました。シックなインテリアの船室から眺める汐留の高層ビル、レインボーブリッジ、お台場、スカイツリー（建設中）、羽田沖の青海原、そして旧友との食事は格別でした。宴会は、懐かしい顔ぶれで学生時代の想い出や第二の人生の過ごし方等に花が咲き、２時間の楽しいひと時を過ごし着岸。船着場で、モデルナ号と高層ビルをバックに、笑顔での記念スナップ撮影。その後、時間に余裕がある人は「ゆりかもめ」に乗り汐留駅近くの喫茶店で談笑しました。次回のクラス会は、新たな幹事に遠藤さんと槇（小岩）さんに加わっていただき（新間さん、川島は継続）、企画したいと思います。その時は、是非ともご参加ください。

（川島　恒男）

## 昭和51年卒業

卒業して早35年、薬学部を取り巻く情勢は大いに変化しています。新設私立薬学部より現状報告致します。６年制になって最も重視されているのが臨床現場での実務実習です。薬剤師免許のない学生を医療現場に出すため、「仮免許」として４年生の後半で「共用試験」に合格する必要があります。そのため、私達教員はその教育に膨大なエネルギーを費やし、殆ど予備校の講師状態です。

こうして合格した５年生が昨年５月より実務実習に出ています。１年間をⅢ期に分け、学生１名につき病院と薬局両方で11週間ずつ実習します。現場で実習生を受け入れている方もいらっしゃるかと思いますが、この状況についてご感想はいかがですか？

６年制の最後の締めくくりとして国家試験が待っています。来年３月頃実施されますが、出題数はなんと345問です！（我々の時は150問）

今年は静岡支部の幹事さん（杉本氏、星野氏、渡辺氏）が、クラス会を開催して下さるようです。皆様にお目にかかれるのを楽しみにしています。

（昭和51年卒、渡辺敏子）

## 昭和55年卒業

この原稿は受験シーズンまっただ中の３月上旬に書いています。今から35年前のこの時期に、携帯電話がこんなに発達することなど知る由もなくあの西千葉キャンパスで受験していました。二日間とも天気は晴れだったと思います。そして４年後（マスターの人は６年後）にキャンパスを離れて以来ん十年経ちました。今の新入社員に「昔は国立大学（あ、今は国立大学法人というのかな）には一期校と二期校があってさぁ」と言ったら「へー、先輩達の頃も国立は二回受験出来たんですかぁ？」なんて言われてしまいました。昨今の製薬会社の事情を考えると、入社以来何らかの理由で会社名が変更となった人はそれなりにおられるのではないかと思います。かくいう私も一度転職し社名が変わりました。もう変更は無いかなと思っていたら、この４月１日付で社名が変わることになりました。今は変更手続きのため多くの書類と格闘して毎日を過ごしています。そして私の子供も来年は受験となります。やっぱり薬学部を目指すのかですって？　その前にまず中学受験ですよ。

（斉藤　治）

## 平成２年卒業

－ご無沙汰しています－

86Ｐの皆さん、またその前後くらいの皆さんお元気でいらっしゃいますでしょうか。ご無沙汰しています浅田です。前回の薬友会報投稿は何年前でしょうか、確か同窓会やりましょうと書いたものの結局やらずに、それ以来何かクラス通信書きにくいなぁと敬遠しておりました。しかし、昨年卒業して20年を迎えるのを機に何か書かねばと一念発起、そして今を迎えています。思えば大学の頃は、20年も経てば各々家庭を持って同級生同士年初の挨拶程度の付き合いを送っていていると考えていたと思うのですが、実際に経った今も同期との繋がりが意外に消えていないことに驚きを感じているこの頃です。立派なお母さん、組織を束ねる企業のリーダー、薬学分野の後進を育てる教育者、薬局を切り盛りする一国の城主、年とともに道は少しずつ違ってきていますが、４年間バブル真っ只中の大学生活を送ってきた者同士、これからも明るく元気に人生を謳歌していきましょう！！

（浅田　安則）

## 平成12年卒業（21世紀会）

2009年末に久しぶりに同級生に会いたいと思い立ち、

この会を立ち上げました。「20世紀末に卒業した私たちが、21世紀に大きく羽ばたこう」という思いをこめて、「21世紀会」としております。

同窓会はこの２年間に３回開催しました。また、同窓会の開催以外にも、今話題のFacebookを活用し、幅広くネットワークを構築しています。

今回の写真は2010年８月に屋形船を貸し切って開催した時のものです（幹事：浦嶋紀久子、北島奈津子）。

久しぶりに会って話をしてみると、様々な話題が山ほどでてきます。「子供が今年から小学生」「転職したら立ち仕事で腰がつらい…」「家族の都合で今の仕事を辞めて海外にいこうかと…」「片道切符の海外転勤の打診が…」といった具合に、何時間話をしていても飽きません。とは言え、昔のようにはいかず、途中からうとうとしてくる人もちらほら。

今後も幹事持ち回りで、年に数回開催していく予定です。2000年卒業のみなさま、奮ってご参加ください。

（佐藤　且章）

## ゐのはな山岳会

山岳会とは今となっては少々厳めしい名前ですが、現在の活動は、月１回週末、関東近辺の日帰り山行と年２～３回の１～３泊山行、それに納涼会と忘年会です。

膝が、腰が・・・と云いながら毎回15名以上の参加があります。歩行時間は平均３～４時間、ゆっくりしたペースで、往年の山男、昔の山ガール、最近リタイアした若者？（この会の年齢スケールは他と少々違います）が自然をじっくり味わいながら登っています。２月末には山形蔵王でカンジキ履いての樹氷トレッキング、皆子供のように楽しみました。

５月には関西在住会員がリーダとなり、吉田智子先生の13回忌お墓参りをかねた内籐記念館見学と滋賀の山に登ります。６月以降は、美ヶ原、碓氷峠とアプト式鉄道見学、富士山五合目、函館駒ヶ岳、天城山、千葉の鋸山等です。

下山後の温泉、宴会？でも世代を超えて話が弾み、毎度時間を忘れた楽しい会になります。

自然の好きな方、お腹のでた方、仲間に会いたい方、昔、山に行ってた優男、今は時間が出来た方、あり余っている方、もちろん現役の学生さん（大歓迎です）、又一緒に山歩きしませんか？

山はチョットという方も納涼会や忘年会だけでもどうぞ。とても自由な集まりですので（会則、会費、会長を置かないのがこの会のポリシーです？）。

昨年は立派な「ゐのはな山岳会50周年記念誌」」も発行されました。

今年も９年後の60周年をめざし、皆元気に笑顔で一歩一歩登って、下っています。

（大竹　珠子）

## サークル紹介

### 千葉大学薬友会ゴルフ

平成16年４月に発足した薬友会ゴルフも今年で８年目を迎えました。その間幹事さんや会員皆様の協力で会員数も増加し、順調に発展してまいりましたが、昨年の会報でお知らせの如く熱心なメンバーであった原口（S38）、池田（S37）両氏の逝去は残念の極みです。22年の第13回大会は陽春４月16日（金）、第14回大会は爽秋10月15日（金）に磯子CCで開催。何れも好天に恵まれ和気藹々とプレーし懇談した。秋の会には最古参の安藤氏（S22）が元気に復帰、今後、継続参加される由大いに期待しています。又女性では長谷川惠子さん（S44）が熱心に楽しくプレーされて居られ、更に女性が増えると一層華やぐのですが。

成績：第13回①三浦（尚）②村瀬　③三浦　第14回①勝浦　②長谷川　③村瀬　23年の大会予定　春季4月15日（金）、秋季10月14日（金）、何れも磯子CC。今後、更に会が発展継続する為には会員の増加が欠かせません。皆さんの参加を心からお待ちしています。『連絡

先』幹事　勝浦公男（S44卒）　電話03-3565-3428　写真は第14回参加者

（世話人　三浦　清）

## バレーボール部

私たち薬学バレーボール部は主に学部生が中心となってサークル活動を行っています。活動は月に一回程度で、人数が集まった場合は千葉市内の体育館を借りて練習をしています。

現在は２年生が中心となって活動しており、ほとんどの部員が未経験者であるため、基礎からしっかりと練習することができます。人数が少ないため他のバレーボールサークルとの練習試合などの交流はありませんが、このさき関わりを増やしていきたいと思います。笑いの絶えないサークルなので、興味のある方は経験の有無に関わらず気軽に練習に来てください。

（薬学部３年生　竹内　喜大）

# 学部だより

## 受　　賞（平成22年3月29日～平成23年3月31日）

### 学　会　賞

平成22年４月13日　文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）（文部科学省）　斉藤　和季（遺伝子資源応用）
平成22年９月25日　日本生薬学会学術貢献賞（日本生薬学会）　山崎　真巳（遺伝子資源応用）
平成22年11月１日　ASPB TOP AUTHORS（米国植物生物学会）　斉藤　和季（遺伝子資源応用）
平成22年11月26日　第43回塩田賞（一般社団法人国立医療学会）　上野　光一（高齢者薬剤学）
平成23年３月６日　第13回守田科学研究奨励賞（社団法人大学女性協会）　荒井　緑（活性構造化学）

### 論 文 賞 等

平成22年３月29日　第83回日本細菌学会総会優秀ポスター賞（日本細菌学会）　北川　良（微生物薬品化学）
平成22年３月29日　第83回日本細菌学会総会優秀ポスター賞（日本細菌学会）　岡　安優太（微生物薬品化学）
平成22年９月８日　9th International ISSX meeting, Best Presentation Award, Predoctoral Research, Second Place（9th International ISSX meeting）　渡邉　未央（薬物学）
平成22年10月２日　第54回日本薬学会関東支部大会優秀発表賞（日本薬学会関東支部）　久保田　翔（分子細胞生物学）
平成22年10月22日　第93回日本細菌学会関東支部総会ベストプレゼンテーション賞（日本細菌学会関東支部）　原　貴史（微生物薬品化学）
平成22年11月14日　日本医療薬学会論文賞（日本薬学会関東支部）　有吉　範高（病院薬学）
平成22年11月29日　Thieme Chemistry Journal Award 2011（Thieme）　根本　哲宏（薬化学）

### 学　内　賞

平成22年11月８日　千葉大学優秀発明賞（千葉大）　高山　廣光（生体機能性分子）
平成22年11月８日　千葉大学優秀発明賞（千葉大）　北島満里子（生体機能性分子）

### 速　　報

本学　山本友子教授（微生物薬品化学研究室）が平成23年度日本細菌学会賞（浅川賞）を受賞されました。同賞は細菌学の分野において国内で最も権威があり、女性研究者の受賞は1927年の同賞設立以来2人目の快挙です。心よりお慶び申し上げます。

## 2010年度　博士学位授与一覧

### 課程博士（甲号）

| 氏　名 | 学位の種類 | 論　文　題　目 | 授与年月日 |
|---|---|---|---|
| Mario Almoite Tan | 博士（薬学） | Chemical Studies on the New Alkaloids Isolated from the Genus Pandanus（Pandanus 属植物含有新規アルカロイドの化学的研究） | 平成22年9月30日 |
| 竹内　典子 | 博士(医薬学) | 慢性腎不全進行速度評価法に関する研究　―血清クレアチニンの倍化に関する検討― | 平成23年3月25日 |
| 小幡　裕希 | 博士(医薬学) | Srcファミリーチロシンキナーゼのゴルジ体からの輸送機構に関する研究 | 平成23年3月25日 |
| Amany Abdelrehim Bekhit Abdelrehim | 博士(医薬学) | The role of OmpC and OmpF in acidic resistance in Escherichia coli（大腸菌の耐酸性におけるOmpCとOmpFの役割） | 平成23年3月25日 |
| 閻　宏偉 | 博士(医薬学) | Potassium ion transport under stress environments(ストレス環境下におけるカリウムイオン輸送) | 平成23年3月25日 |
| Bunsupa Somnuk | 博士（薬学） | Molecular and functional characterization of enzymes involved in quinolizidine alkaloid biosynthesis in Lupinus angustifolius（ホソバルピナスにおけるキノリチジンアルカロイド生合成に関与する酵素群の分子生物学的機能解析） | 平成23年3月25日 |
| 大瀬　塁 | 博士（薬学） | 細胞接着因子PCDH24による細胞増殖制御機構の分子生物学的研究 | 平成23年3月25日 |
| 岩田　紘樹 | 博士（薬学） | 癌緩和・薬物療法におけるモルヒネ及び脱メチル化薬の有用性に関する薬理学的研究 | 平成23年3月25日 |
| 前田　創 | 博士（薬学） | 遷移金属錯体を用いた触媒的不斉水素化反応の開発および反応機構の解明 | 平成23年3月25日 |
| 大房　俊行 | 博士（薬学） | アミノジエンおよび環状ジエノフィルを用いたDiels-Alder反応と天然物合成への適用 | 平成23年3月25日 |
| 西脇　秋則 | 博士（薬学） | シリカ多孔体（FSM-16）へのステロイド薬物の封入およびその分子状態の評価 | 平成23年3月25日 |
| 宮台　信男 | 博士（薬学） | 複合型流動層によるイブプロフェンの一次粒子コーティングとコーティング粒子の特性評価 | 平成23年3月25日 |
| 北川　良 | 博士（薬学） | 病原細菌のmembrane vesicle形成に関する研究 | 平成23年3月25日 |
| Lo Mee Wah | 博士（薬学） | Studies on Localization of Capsaicin Receptor TRPV1 and Serotonin Signalling in Mouse Rectum with Pharmacological Effects of Indole Alkaloids Derived from Voacanga africana（マウス直腸におけるカプサイシン受容体TRPV1とセロトニンシグナリングの局在およびVoacanga africana由来インドールアルカロイドの薬理作用に関する研） | 平成23年3月25日 |
| 宮本　怜 | 博士（薬学） | 標的集積性向上を目的とした細胞膜アンカー分子結合抗体に関する基礎的研究 | 平成23年3月25日 |
| 吉田　千里 | 博士（薬学） | C-kitを標的とする小細胞肺がん画像診断薬剤および内照射治療薬剤の開発に関する基礎的研究 | 平成23年3月25日 |

### 論文博士（乙号）

| 氏　名 | 学位の種類 | 論　文　題　目 | 授与年月日 |
|---|---|---|---|
| 東　顕二郎 | 博士（薬学） | γ-シクロデキストリン同士で形成される空間へ薬物を封入した新規複合体の調製とその物性評価 | 平成22年3月25日 |
| 小林江梨子 | 博士（薬学） | Public Acceptance of New Emerging Medical Technology and Medical Policy　～医療に対する社会的要因の影響に関する研究～ | 平成23年3月25日 |
| 北畠　道和 | 博士（薬学） | Pictet-Spengler反応を応用した2環性含窒素複素環化合物の合成 | 平成23年3月25日 |
| 櫻田　大也 | 博士（薬学） | 効果的ながん薬物治療に関する研究　－化学療法及び疼痛管理－ | 平成23年3月25日 |

## 教員の異動（2010. 5. 1～2011. 4. 30）

H22. 8. 1
LIMWIKRANT Waree（テニュアトラック助教）採用
（製剤工学）
H22. 9. 1
中山　祐治（准教授）昇任（分子細胞生物学）
H23. 3. 1
花岡　宏史（助教）採用
（群馬大学大学院医学研究科寄附講座助教→分子画像薬品学）
H23. 3. 31
上田　志朗（教授）退職（医薬品情報学）
H23. 4. 1
天野　惠子（客員教授）称号付与（高齢者薬剤学）
H23. 4. 1
櫻田　大也（助教）配置換
（高齢者薬物学講座医薬品情報学→臨床薬学講座臨床教育）
H23. 4. 1
小林江梨子（助教）配置換
（高齢者薬物学講座医薬品情報学→臨床薬学講座臨床教育）
H23. 4. 1
増田　和司（助教）配置換
（臨床教育→実務薬学）

## 2010年度　卒業生・修了生の進路

**学部学生**　41名：進学39名（千葉大学37名　他大学2名）
**修士修了**　77名：進学13名（千葉大学11名　他大学2名）病院・薬局：9名（北里大学病院、山梨大学附属病院、日本赤十字医療センター、国立がんセンター東病院、千葉大学医学部附属病院、虎ノ門病院、群馬大学医学部附属病院、くすりの福太郎）
企業：49名（科研製薬、住友化学、ゼリア新薬、高田製薬、アスビオファーマ、大正製薬、持田製薬、中外製薬、田辺三菱製薬、大日本住友製薬、全薬工業、広栄化学工業、日産化学工業、高砂香料、興和、日医工、塩野義製薬、富士薬品、日本新薬、マンダム、長谷川香料エーザイ、アステラス製薬、テルモ、千寿製薬、東邦薬品、白鳥製薬、トーアエイヨー、日本生科学研究所、アスクレップ、Ｐ＆Ｇ、日本メジフィジックス、総合メディカル、日本ホワイトファーム、パレクセル・インターナショナル、サノフィ・アベンティス、イーピーエス）　公務員・その他:8名（地方公務員、医薬品医療機器総合機構、信州大学、群馬大学）
**博士修了**　16名：東京理科大学、名古屋大学医学部附属病院、エーザイ、セントラル硝子、てらしま薬局、アインファーマシーズ、エスエス製薬、慶應大学

## 2011年度　薬学部・大学院医学薬学府入学者

**学部入学**　88名：(男42名、女46名)：推薦10名、前期64名、後期12名、帰国子女2名　(出身県別：北海道2名、宮城1名、福島2名、茨城8名、栃木2名、群馬1名、埼玉12名、千葉13名、東京24名、神奈川10名、新潟2名、山梨1名、長野1名、静岡2名、愛知1名、兵庫1名、広島1名、鹿児島2名、沖縄2名)
**修士入学**　49名：総合薬品科学専攻49名
**博士（薬学領域）入学**　21名：創薬生命科学専攻13名、先進医療科学専攻5名、先端生命科学専攻3名

## 薬友会より

薬友会のホームページURLです。随時更新しております。ぜひご覧ください。
http://www.p.chiba-u.ac.jp/yakuyukai/

**平成23－24年　主な活動予定**
23年５月　会報21号発行
７月　役員会および臨時総会*・生涯教育セミナー（*会則改正のため）
12月　役員会・常任理事会
24年５月　会報22号発行
７月　役員会および総会・生涯教育セミナー
12月　役員会・常任理事会

**平成22年度　活動報告**
３月　新入生入会案内（新規終身会員86名）
５月　会報20号発行
７月　第19回千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明セミナー）開催（千葉大学けやき会館）「身近な“やまい”とたたかう ― 薬学研究者の挑戦」（講師４名，参加者130名）
12月　役員会・常任理事会

**お知らせ**
本会活動のますますの活性化のため、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。
１）終身会員：会費２万円、昭和48年に開設（現在約50％加入）会員名簿を更新のたびに無料にて配布致します。
２）寄付：一口２千円から受け付けております。特に

終身会員会費が１万円であった会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

３）会報、名簿等への広告掲載をご希望の方は薬友会までご連絡をお願い申し上げます。

上記いずれのお申し込みも＜郵便振替口座00150-5-551796千葉大学薬友会＞にお願い申し上げます。

**名簿のCD化について**

平成22年12月の役員会・常任理事会において、名簿委員会より、名簿発行に関する費用の軽減と個人情報管理に関する負担軽減のために、薬友会会員の個人情報管理と会報発送を専門業者に委託し、名簿をCD化することが提案され，承認されました。

住所・勤務先の異動及び変更があった方は、会員名簿に添付されている異動通知連絡カードに必要事項を記入の上、薬友会名簿係までお送り下さい。変更は電子メール(yaku-yuu@p.chiba-u.ac.jp)でも受け付けております。

**各種委員会名簿**

総務委員会　○石橋正己、荒井　緑、當銘一文、村上泰興（S36)、戸井田敏彦（前委員長：アドバイザー）

財務委員会　○山浦克典、上野光一、村上泰興（S36)、山崎真巳（元委員長：アドバイザー）

名簿委員会　○千葉　寛、小林カオル、降幡知巳、村上泰興（S36)、荒野　泰（前委員長：アドバイザー）

事業委員会　○堀江利治、設楽悦久、関根秀一、小川通孝（S34)、高山廣光（前委員長：アドバイザー）

会報委員会　○根矢三郎、星野忠次、鈴木優章、荒野　泰、上原和也、小川通孝（S34)、加藤文男(S47)、角田範子(S52)、齋藤和季(前委員長：アドバイザー）

（○印；委員長）

**千葉大学SEEDS基金について**

このたび千葉大学SEEDS基金が創設されました。本基金（＝無限の生命力を象徴する種子）はチャレンジを支え、人を育てる基金として、優秀な学生への教育・研究生活にかかわる経済的支援などに活用されます。皆様からのあたたかいご支援をお待ちしています。詳しくはホームページ（http://kikin-chiba-u.jp/）をご覧ください。

## 薬友会会員名簿のCD-ROM化について

薬友会名簿は４年ごとに改定されています。前回の改定年である平成19年度には約3,400名の終身会員に新名簿が配布されました。名簿の印刷と送付にかかった費用は400万円を超えており、次第に薬友会の財政を圧迫するようになってきています。これに対し、薬友会運営の主要な財源である終身会費は、薬学６年制への移行に伴い修士課程の定員が半減されたこともあり、この一年で約15%減収となりました。そのため、このままの形態で名簿の発行を続けた場合、発行年ごとに約200万円の赤字が生じ薬友会の健全な運営に支障をきたすことが危惧される状況となっています。

一方、2005年に個人情報保護法が施行され、名簿に掲載される個人情報の管理や掲載の許諾について細心の配慮をする必要がでてきました。現在名簿に収載されている個人情報の管理は主に名簿委員会が行っており、管理の一部を印刷会社に委託する形で行っています。掲載事項の修正や更新は、会員からの移動通知連絡カード（薬友会名簿巻末に添付）やメールによる連絡を随時受け付けていますが、更新情報は必ずしも十分ではなく名簿発行年には各研究室の職員と学年理事が中心となって住所等の情報の修正と更新にあたっています。本来、名簿掲載事項の更新は個々の会員に現在の掲載事項をお知らせしたうえで修正や掲載事項の選択と許諾を受けて掲載するのがあるべき姿と思われます。しかし、5,000人を超える卒業生や修了生に情報の流出を防ぎつつ名簿に掲載する情報の更新と掲載の許諾を行うことには多大な事務的負担の増加を伴うこととノウハウが必要なことから、同窓会等の情報管理専門会社に委託するのが一つの選択肢と言えます。しかし、それを行うためには新たな費用が派生します。

これらの問題の解決法として、名簿委員会は、会員名簿をCD-ROM化するとともに、名簿の情報管理を専門の会社に委託する案を平成22年度に開かれた総会および理事会で提案させていただきました。この案は会員名簿のCD-ROM化によって製作と送付にかかる費用を削減し、削減された費用の一部を会員情報管理に充てようとするもので、本案により４年間で150～190万円の経費の削減と個人情報管理の質的向上を望むことができます。理事会ではCD-ROMを使いこなせない会員に相応の対応をすることを条件にCD-ROM化と個人情報管理の改善が承認されました。さらに前回まで１～２月に行われていた名簿の送付を薬友会報と一緒に５月に行うことで経費を削減する案も承認されました。

以上の経緯に基づき、名簿委員会では平成23年度に予定されていた薬友会名簿はCD-ROMとして平成24年５月に配布する予定で準備を始めることになりました。そのための第一段階として今回の薬友会報には名簿掲載事項確

認はがきが同封されています。このはがきを返信していただくことは、会員に薬友会報を、終身会員に会報と会員名簿を間違いなく送り届けるためであると同時に、同窓会活動の基盤となる大切な手続きです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

薬友会名簿委員会委員長　　千葉　寛

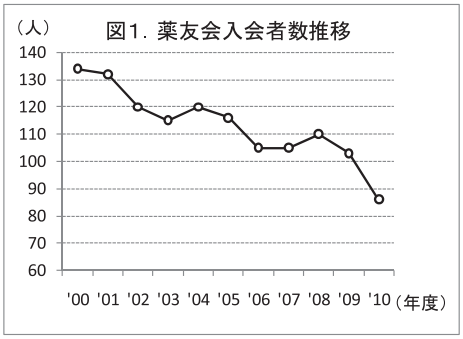
## 薬友会の新規入会者減少と終身会員加入のお願い

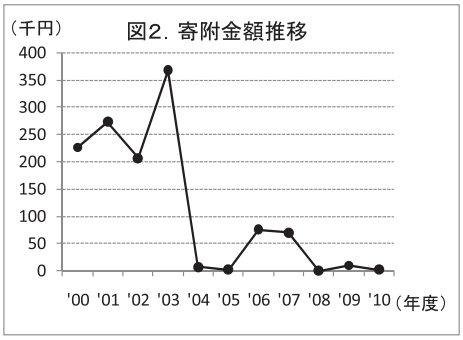
財務委員長　山浦　克典

薬友会は収入の大部分を新規入会者の終身会費に依存し、2010年度ではその割合は99%です。現在、私立薬科大学のほとんどが６年制薬学教育に移行しているため、６年制導入５年目を迎えた2010年度は、外部からの大学院入学者が減少しています。その影響を受け、新規入会者数は10年前の6割にまで落ち込みました（図１）。過去10年間、新規入会者数は減少の一途をたどり、今後もこの状況が続くと予測されます。

2003年度までは毎年20万円以上の寄附収入がありましたが、不景気のあおりを受け2004年度以降は寄附収入がほとんど見込めなくなりました（図２）。一方、終身会員数は年々増加し、これに伴う会員名簿の発行費用（４年毎に終身会員に配布）の増加により、現在では収入の大部分が会員名簿と会報の発行費用に充てられています。このため、将来に向けた財務上の対策が必要となっています。支出節減の方策として千葉名簿委員長より会員名簿のCD化が提案され、昨年末の薬友会役員会･常任理事会にて承認されました。これにより当座の財務安定化の見通しが立ちましたので、財務委員会としては一息ついています。

薬友会では会員の皆様の終身会員へのご加入とご寄附を随時受付けておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。




## 東北地方太平洋沖を震源とする地震への「義援金」のお願い

千葉大学薬友会　会長　西田　篤司

2011年３月11日に発生した東北地方太平洋沖を震源とする地震により甚大な被害を受けられた薬友会会員のみなさまおよび福島原子力発電所事故に伴い生活基盤が奪われてしまった会員のみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

このたびの震災において、本学部の学部生および大学院生に対して調査を行った結果、数名の在校生またはそのご家族が被災したことがわかりました。つきましては、千葉大学薬友会では義援金を募り被災地の方々の支援に向けることといたしました．多数の皆様のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、お預かりしました義援金は、薬友会から被災した在校生への経済支援を中心に被災者に届くよう寄附させていただく予定としております。

【義援金振込み口座】＜郵便振替口座00170-8-639303千葉大学薬友会義援金＞、または ＜ゆうちょ銀行〇一九（ぜろいちきゅう）店・当座預金0639303千葉大学薬友会義援金＞

※領収書の発行は致しかねます。

## 第20回　千葉大学大学院薬学研究院･薬友会　生涯教育セミナー･(宮木高明セミナー)開催のお知らせ

**日　時**：平成23年７月２日（土）　13:00～17:20

**場　所**：千葉大学　大学ホールけやき会館（1階大ホール）
（〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町1-33）

**主　催**：千葉大学大学院薬学研究院・千葉大学薬友会

**共　催**：日本薬剤師研修センター
（参加者には日本薬剤師研修センターより３単位が認定されます。）

**後　援**：(財)猪之鼻奨学会

**テーマ**：**「体の中の薬の動きを見て・知って・使う」**

**１）薬剤性腎症**
上田　志朗　先生　（上田医院　院長；元千葉大学教授）

**２）新薬創生と薬物動態研究：研究開発の現場から**
碓井　孝志　先生　（アステラス製薬株式会社　代謝研究所長）

**３）放射線と薬学**
荒野　泰　先生　（千葉大学大学院薬学研究院　教授）

**４）宮木高明記念セミナー**
**マイクロドーズ臨床試験を活用した革新的創薬技術の開発：薬物トランスポーターの機能評価を基盤に**
杉山　雄一　先生　（東京大学大学院薬学系研究科　教授）

**懇親会**：17:20～18:30　けやき会館内　レストラン　コルザ

**千葉大学校友会総会のご案内**
平成23年度校友会総会は平成23年秋、けやき会館で開催されます。開催時間等の詳細は千葉大学ホームページに掲載予定です。

**セミナー参加費**　1,500円（事前予約）　2,000円（当日）

**懇親会参加費**　2,500円（事前予約）　3,000円（当日）

**参加申込み方法**　郵便局備え付けの払込書にて下記の郵便振替口座に参加費を送金ください。払込書の通信欄に、氏名、住所、卒業年度を必ずご記入ください。[事前予約締切：平成23年６月24日（金)]
**郵便振替口座：00150-5-551796　千葉大学薬友会**

本セミナーに関するお問い合せは薬学研究院（生物薬剤学研究室）堀江利治までお願いいたします。
（電話：043-226-2886　E-mail：　horieto@p.chiba-u.ac.jp）

**◇生涯教育セミナーへのご招待：本年度は薬学部卒業後35年の1976年（昭和51年）３月、卒業後45年の1966年（昭和41年）３月に卒業された方々をご招待いたします。該当されます皆様は、当日受付にお申し出ください。**
**西千葉キャンパス見学のご案内：卒業生と一緒に参加される小・中・高校生及び大学生については参加費無料といたします。又ご希望があれば西千葉キャンパスをご案内いたしますので、事前にお申し込みください。**
**薬学部が亥鼻キャンパスに全移転する直前のセミナーとなります。この機会に是非母校に足を運ばれ、思い出の西千葉キャンパスで旧友と久しぶりの一時をお楽しみください。**

### 編集後記

2011年３月11日に起きた東北関東大震災の被災者および関係者の皆様には心からお見舞い申しあげます。薬学部キャンパスも激しく揺れましたが、幸いにも被害は軽微でした。本年８月下旬には薬学研究院第２期棟が完成予定で、いよいよすべての研究室が亥鼻キャンパスに移転します。皆様の移転記念事業へのご寄付、ならびに記念式典へのご出席をお願い申しあげます。本号が西千葉からの最後の会報となります。ご寄稿いただきました会員の皆様、ありがとうございました。　（根矢　三郎）

**薬友会報21号編集委員会**
根矢三郎（委員長）、星野忠次、鈴木優章、荒野泰、上原知也、花岡宏史、小川通考（S34）、加藤文雄（S37）、角田範子（S52）、斎藤和季（前委員長）